

このニュースレターでは学生達の活躍、講義や実習の様子、学科の取り組み、動物豆知識などを紹介します。獣医保健看護学科に興味を持ってくれた高校生の皆さんとのコミュニケーションツールになればと思っています。

## 「看護の視点」を意識し、実践する

臨床動物看護技術学実習は3年生の科目です。この実習では動物たちが安全で健康に過ごすために必要な知識や技術を「看護の視点」で学びます。

今回は「栄養管理」について紹介します。動物たちの健康管理に欠かすことができない最も大切なことは「食べること」です。身体に必要な栄養素は動物種やライフステージ（成長段階）、病気の有無などで大きく異なります。

病気や老化などで食欲がない動物には工夫が必要になってきます。フードを砕いたり、ふやかしたりして食べやすいようにしたり、温めると風味が増して食欲を刺激します。その他には食器の素材や形状、置く位置を変えて食べやすくするなどの工夫が必要な時もあります。

写真は流動食を作っているところです。ペットの高齢化も進んでいますので、飲み込む力が弱くなった動物には食べやすくした食事が必要になります。



## インターンシップ体験記

【3年 山根優真】

2年生の夏休み、松山市にある仙波牧場へ1週間インターンシップに参加しました。牧場を実習先にした理由は、牛や豚などの畜産動物に関わる仕事に興味をもっているからです。また、牛と直接かかわることを通して、酪農に関する知識や技術を身につけたいとも考えました。実習では、主に糞糞、給餌、搾乳を行いました。最も印象に残っているのは給餌です。仙波牧場は、自給飼料を重視しており、自分の畑で育てた草を刈り取って牛に与えています。収穫作業には多くの力と時間が必要で、肉体的につらいと感じることがありました。



しかし、収穫した飼料を牛が喜んで食べている姿を見て、やりがいを感じることができました。

実習を通して、作業効率を考えることの必要性を学びました。酪農は仕事内容が多く、一つ一つの作業にも時間がかかるからです。また、牛が過ごしやすい環境をつくるためにはどうすればいいかなど、牛の目線で考えることの重要性も学びました。

## 感染症の抗体検査



「抗体検査」という言葉を、新型コロナウイルス感染症関連のニュースで聞いたことがあるかもしれません。新型コロナウイルスに限らず、抗体検査では血液中の抗体の有無を検査することで、過去に感染症にかかったことがあるかを知ることができます。

実験動物はある特定の微生物に感染しないように、厳密に管理された環境で、清潔を保って飼育されています。動物の飼育環境が清潔に保たれているかを確かめる方法のひとつがこの抗体検査です。

2年生の科目である実験動物学実習Iでは、列に並んだとても小さな試験管を使って実際に抗体検査を体験します。検査の仕組みや検査結果から感染の有無を判断する方法を学びます。

抗体が抗原と反応すると試薬の色が変わります。試薬の色の変化を見ることで、感染症にかかっている「陽性」かどうかを判定できます。

### 猫の水の飲み方は効率が悪い？

犬や猫と一緒に暮らしたことはありますか？犬と猫の生活様式の違いについて紹介します。

犬と猫が、同じように舌を使って水を飲むことはみなさんご存知だと思います。けれど、よく観察してみると実は違う飲み方をしているのに気づいたことはありますか？犬は舌を水に浸ける時に舌の裏側を少し丸めてすくって飲んでいるのに対して、猫は水に舌先を浸けた時にくっついて来た分だけを飲んでいるのです。つまり、犬に比べて猫は一度に大量の水を飲むのがとても苦

手なのです。これはもともと熱帯地方で生まれた猫科動物が、少量の水でも生きていけるように進化してきた結果なのかもしれませんね。



### “ゲップ”ができない動物



体内に空気が溜まると、それを口から排出するために私たちはゲップをしますが、馬はゲップをしないのをご存知でしょうか？

馬の噴門部（胃の入り口）は筋肉（横紋筋）が発達しているため、一度胃の中に入った空気は食道に逆流できず、ゲップができないのです。食べ物も同じで、胃に入ると食道に逆流できないので嘔吐することもできません。

牛には胃が4つありますが、馬には1つしかありません。その代わりに腸がとても長く、大腸がとても発達しているため、ゲップはできませんがオナラがたくさん出ます。

発行元 岡山理科大学 獣医学部 獣医保健看護学科

お問い合わせ先

〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘1-3

TEL（代表）：0898-52-9000

